

令和7年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立蓮沼中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第2、3学年において、達成率が全国平均を上回った。
- ・第2、3学年において、達成率が昨年度とほぼ同等となった。

(2) 課題

- ・基礎的な計算力の定着
- ・数学的思考力の向上
- ・思考、判断を必要とする課題に対する理解・読解力

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	区の平均より7.9ポイント下回り、全国平均より5.5ポイント、目標値より5.3ポイント下回っている。		
第2学年	区の平均より1.9ポイント、区の目標値より1.9ポイント下回り、全国平均より、1.2ポイント上回っている。	区の平均より2.8ポイント、全国平均より5.3ポイント、目標値より3.3ポイント上回った。	
第3学年	目標値より5.8ポイント上回り、区の平均より4.6ポイント、全国平均より7.6ポイント上回った。	目標値より0.9ポイント下回ったが、区の平均より1.4ポイント、全国平均より5.3ポイント上回った。	目標値より0.9ポイント下回ったが、区の平均より0.5ポイント、全国平均より4.4ポイント上回った。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の平均を8.4ポイント下回り、目標値を7.2ポイント下回った。	区の平均を6.7ポイント下回り、目標値0.4ポイント下回った。	

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の平均より1.3ポイント、目標値を0.5ポイント上回った。	区の平均より3.1ポイント、目標値を4.8ポイント下回った。	

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の平均を5.0ポイント上回り、目標値を6.4ポイント上回った。	区の平均を4.0ポイント上回り、目標値を4.8ポイント上回った。	

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
図形分野はやや達成率が高いものの、特に分数、小数の計算に課題が見られる。中学校では、文字式や方程式など、基礎的な数理処理を学ぶ機会が多い。この機会を有効に活用し、分数、小数を含めた復習を行い、習熟度を高めていく。	関数やデータ処理の分野の達成率が低い。これは、課題から必要な情報を入手する力が弱いと判断できる。授業では、学級全体で問題をよく読み、情報を整理する習慣を付けさせる授業を展開する。また数式に対して、言語活動を重視し、数学的な表現力を高めていく。	定期的に行う小テストや単元テスト、自分の課題を認識し、主体的に学習に取り組む姿勢や態度を養う。途中式を大切に書かせる中で、生徒が実践で使用できる板書を教師が心がけ、分かる授業を進める。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正負の数や文字式など、基本的な計算は概ねできているが、比例・反比例の値の変化や平面図形、度数分布表から相対度数を求める問題において課題がみられる。1次関数や図形の性質の授業で復習を行い、習熟度を高めていく。	文章や図、表から適切に情報を読み取り説明や立式を行う力に課題が見られる。グループ学習の話し合い活動を通じて、様々な考え方や見方にふれ、自分の考えを読み解く力や説明する力を養う。	出題範囲を限定した小テストや単元ごとにまとめる振り返りワークシートの作成を通じて、主体的に学習に取り組む姿勢を養うとともに、自らの課題を認識し自己解決できる力をつけていく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な知識や計算方法は概ね定着しているが、多角形の内角の和を求める問題や図形の証明において課題が見られる。相似な図形の単元内で図形の復習を行うことで必要な知識を定着させていく。	思考・判断を必要とする課題を読み取る力はあるものの、初見の問題を考えることに課題が見られる。発展的な内容を授業内で多く取り上げ、その内容を他者に教え合うことで、内容を整理し、その事柄を説明する力を高めていく。	授業で行う単元テストや振り返り、課題を通して自分の課題を認識することで、主体的に取り組む姿勢や態度を養う。また、自らの課題について自己解決できる力をつけていく。